

特定非営利活動法人 エキスパート児童福祉支援協会

未来のつばさ



INDEX

P.2 特別寄稿

子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員長
子どもの虹情報研修センター研修部長 増沢 高

多分野協働とオレンジリボンたすきリレー

P.3 リレーメッセージ

卒園した先輩から後輩へ

将来について悩んだ時は、
自分の「好きなもの見つけ」をしてみてください!

P.4 特集 未来へはばたく子ども達

P.6 紹介ひろば

児童養護施設 広島新生学園

P.7 入会・寄付のご案内

支援者からの声

P.8 2010年度 育英奨学・自立支援資金 応募要項

申請受付から選考、支援完了までのプロセス

Vol.11
2010.12

多分野協働と オレンジリボンたすきリレー



子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員長
子どもの虹情報研修センター研修部長

増沢 高

子ども虐待の予防と子育て支援

毎日のように、子ども虐待の事件が新聞やニュースで取り上げられています。子ども虐待対応の中心機関である児童相談所に対応した虐待事例件数は、統計を取り始めた1991年度の1,101件から毎年増え続け、2009年度は44,210件と発表されました。約20年間に40倍を超えたのです。また虐待による死亡事件も後を絶たず、2008年度は128人の子どもが死亡しています。これは毎週2人の子どもが虐待によって命を絶たれていることとなります。もはや子ども虐待は、現代社会が抱えた重大問題の一つといつてよいでしょう。

子ども虐待への対応は次の3つのレベルで考えるのが基本です。①虐待の発生を予防すること、②早期に発見し、家庭に介入すること、③虐待の影響からの回復と家族の再生に向けた支援の3つです。いずれの段階も、その取り組みは決して簡単なものではありません。子ども虐待への対応は、一人の専門家や一つの機関では成り立ちません。児童相談所をはじめ、保育園、幼稚園、学校、医療機関、福祉事務所、児童福祉施設、裁判所、警察等、支援に必要な複数機関の協働が必須なのです。それぞれがきちんとつながりあった上で、自分たちができる役割を担い、他がそれを支えるというサポートシステムが重要なのです。

サポートシステムの中には一般の方々や企業も含まれます。例えば虐待の予防につながる子育て支援の充実を考えた時に、養育者が孤立せず、必要なサポートを得やすい地域作りのために、自分たちに何ができるかを皆で考える必要があります。そして基盤として必要なことは、地域住民や企業も含めた社会全体の「子どもを大切に子育てを支える価値観、文化」の確立です。一部の人が良いアイデアを生み出したとしても、この基盤がなければ海の藻屑と消えてしまうでしょう。

子ども虐待防止の象徴として

今年で4回目を迎える「児童虐待防止オレンジリボンたすきリレー」は、そうした願いから始まりました。子ども



虐待防止の象徴であるオレンジリボンをたすきに仕立て、さまざまな機関・分野の人たちがこのたすきをリレーしながら走ることで、「立場は違えど心をつなぐれば大きな力になる」ことを示すと共に、子ども虐待防止への市民の関心を高めることを目的としたオールボランティアによる啓発活動です。「子どもに明るい未来を」のスローガンを掲げ、東は渋谷駅の忠犬八公前から、西は小田原の児童福祉施設ゆりかご園から、各7区の区間をつなぎ、ゴールの山下公園に向かいます。山下公園では、さまざまな機関が啓発のためのブースを設置し、朝からさまざまなイベントを行い、夕方ゴールするランナーを迎え入れます。

初めは限られた分野の少ない人数からスタートした活動ですが、その後徐々に賛同する方々が増え、今年はランナー数や会場でのブース数も増えました。この日のために、中学生から大学生、行政の方や企業の方、里親さん、主任児童委員等地域の方など、さまざまな立場の人たちが手作りのオレンジリボンを作ってくださいました。その数は目標の7,000個を超えて10,000個となりました。「子どもを大切にしたい」「子どもを育てる養育者を守りたい」そう願う人たちは決して少なくありません。この活動を通じて私はその思いを深めています。同時に勇気の源にもなっています。たすきリレーに賛同され、協力をいただいている方々、子どもの明るい未来作りに少しでも手を貸してくれている方々に心から感謝いたします。

また、たすきリレーは、東京、神奈川のみならず、岐阜県や山口県など各地で行われるようになってきております。たすきリレーの輪がこうして全国に広がっていくことを願っています。また11月は児童虐待防止推進月間として、たすきリレー以外にも、全国各地で虐待防止の啓発活動が行われています。ぜひそうした活動にも関心を持っていただき、できる範囲のご協力をいただければ幸いです。

増沢 高

情緒障害児短期治療施設「横浜いずみ学園」副園長を経て、2002年より「子どもの虹情報研修センター」勤務。明治大学文学部、明治大学大学院文学研究科、椋山女学院大学大学院人間関係学研究科（兼任、非常勤）講師。主な著書に「いっしょに考える子ども虐待」（共編著）明石書店、「心理臨床における治療的環境」金剛出版、村瀬嘉代子他編「対人援助の技とこころ」金剛出版、「虐待を受けた子どもの回復と育ちを支える援助」福村出版、「子ども虐待事典」（共監修）福村出版。

卒園した先輩から後輩へ



エキスパート児童福祉支援協会の支援を受け、社会人として成長している先輩から、今まさに施設を巣立っていかうとする子ども達へのリレーメッセージ。第1回目は、児童養護施設 鳥取こども学園の卒園生から在園生の皆さんへのメッセージをお届けします。

先輩から

将来について悩んだ時は、 自分の「好きなもの見つけ」をしてみてください！

■鳥取県 鳥取こども学園(2006年卒) 保育士

早いもので保育士として働きはじめて2年目になりました。子ども達と笑って泣いて、本当に楽しく毎日過ごしています。今の私を支えてくださった多くの方々に感謝し、とても充実した日々を過ごしていることに幸せを感じている22歳の私です。

思い返せば、早く働きたいと思うこともあり、何になるかと悩んでいました。そんな時、私は一体何が好きなのか？ということを考え、子どもが好きなことに気がきました。一緒に遊びたい。そんな気持ちから、保育園の保育士として働いています。



働くなかでも辞めたい…と思うことはたくさんありました。保育士に向いていないのではないかと考えることさえあります。子どもと一緒に笑えない時もありました。でも辞めないのは「子どもが好き」という根っこがあるからだだと思います。好きなことだから続けられるのです。

皆さんも、これからいろいろな悩みが出てくると思います。その時はもう一度、自分の「好きなもの見つけ」をしてみてください。自分の将来が見えてくると思いますよ！

後輩から

辛くても、夢だけは見失わず歩いていきたい

■鳥取県 鳥取こども学園 高3

将来の自分がどんな生活をしているのか不安があります。おそらく笑ったり、泣いたり、いろいろなことがあると思いますが、その中で自分自身を成長させるものに出会い、充実した日々を送りたいものと願っています。

自分を支えてくれた方々に常に感謝の気持ちを持ちながら、「好きなもの見つけ」をし、辛くても夢だけは見失うことなく前を向いて歩いていく。そして人生を楽しみたいと考えています。

施設の先生から

鳥取こども学園 主任保育士 前田 佳寿美先生

子ども達が夢を現実のものとして頑張っていることを嬉しく感じます。

思い悩むことは多々あると思いますが、行き詰まったら誰かに相談して決めていく、「決めたら変更無し」ではなく、立ち止まって自分の気持ちを確認し、柔軟な心を常に持ち続けて欲しいと思います。

いつでも連絡を待っています。生活を共にしていた時のように話ができる、そうありたいと願っています。

未来へはばたく

社会の厳しさと喜びを実感し、多くの人に支えられているという感謝の気持ちを改めて感じたという、たくさんの子どもの近況が届いています。

子ども達



念願の介護施設での仕事

■長崎県 聖母の騎士園 出身 自立支援

私は中学の時から介護の仕事をしたと望み、高3の時に奨学金でホームヘルパー二級資格を取得しました。今は念願の介護施設で介護の仕事につき、6カ月が経ちました。老人のお世話をするうちに、楽しいという思いだけではなく、一人ひとり介護を受ける人たちの立場になって考えることが大切なのだと思いました。職員とコミュニケーションが上手くとれず反抗することもありましたが、「一職員として取るべき態度ではない」と上司に注意され、少しずつ直していき今ではトラブルもありません。敬老の日のイベントでは、一つ仕事を任せてもらえるようになりました。目標は、3年後介護福祉士の資格を取ること。仕事と勉強の両立に励み、専門職として頑張ります。

施設の先生から

施設を退所してから、新しい生活と介護の仕事に慣れるのに大変だったようです。仕事に慣れるに従い介護する者としての指導にもきつい面があり、それを態度に出して上司より注意されたようですが、今は落ち着いて素直に指導に従えるようになり、チームメンバーの一人として頑張っているようです。介護の研修にも参加させてもらえるようになって、学ぶ意欲が伺えます。

学生寮での新しい生活

■愛媛県 松山信望愛の家 出身 育英奨学支援

私は現在、大学の学生寮で生活しています。大学生活が始まって4カ月が経過し、新しい生活にも少しずつ慣れてきました。私は国際学類ということもあり、英語やフランス語などの外国語に特に力を入れて勉強しています。大学に入ってから感じたことは、しっかりとした目標や意志を持ち続けることが大切だということです。寮で暮らして思っていたことは、人脈や人間関係を大事にしなければならないということです。寮の先輩たちが礼儀や大学でのことについて親切に教えてくださり、そういったことを感じました。これからも新鮮な気持ちを忘れずに、大学生としての自覚と常に誰かに支えられているという感謝の気持ちを持って頑張っていきたいです。

施設の先生から

勉強がおろそかにならないように調整しながらアルバイトをして生活費を捻出しているとのこと。授業料は奨学金の手続きをして借りたお金で支払っているとのこと。知らない土地で知らない人たちの中で新しい生活をスタートさせ、彼は彼なりに日々頑張っている様子です。自分の足でしっかりと歩き始めているという自信もついている感じがしました。4年間勉強に励み、自分の夢を実現させてほしいと思います。

自分の夢を叶えるために

■兵庫県 泉心学園 出身 自立支援

不安だった仕事にもようやく慣れてきて、毎日忙しく働いています。できなかった仕事もできるようになり、自分から進んで仕事をできるようになりました。時々、失敗して社長やチーフに怒られることもありますが、自分の夢を叶えるため、一生懸命に取り組んでいます。周りの人に助けてもらいながら、仕事を覚えていくつかの仕事を任せてもらえるようになりました。仕事を任せられるというのが僕にとってすごくうれしくて、やっと一歩前に進んだ気がします。これからも辛いことや苦しいこと、逃げ出したい時もあるかもしれない。だけど夢を叶える為に、それを少しずつ乗り越えていくことが大切だなぁと思います。周りの人に感謝し、成長していこうと思います。

施設の先生から

いろいろと悩んだり、生活リズムがぐずれ体調不良を訴えたこともありますが、社長さんや周りの方に助けられたり厳しく指導を受けたりしつつ、調理を少しずつ教えてもらっているようです。社長さんに見守られながら、お客様に出す料理を作ったり、魚や貝を料理したりしているようです。大変ですが精一杯頑張っています。一人での生活にも慣れたようで、身なりもきちんとして来園しています。

大きな事故を乗り越えて

■茨城県 窓愛園 出身 自立支援

高校卒業と同時に3月から看護助手として先輩看護師の傍で仕事を始め、4月からは准看護学校にも通い始めました。仕事も1カ月経つ頃にはずいぶん慣れて充実した日々を送っていました。ところが、5月に交通事故に遭い入院することに。自分が患者の立場になったことで、看護師さんと接しながら多くのことを学び、患者さんの気持ちも分かりました。8月末ごろ、腕の骨が曲がってくっついてしまったことで再入院し、手術を受けました。今はだいぶ良くなりリハビリをしています。准看護学校にも毎日通い、勉強だけではなく実践的なことも学んでいます。職場は現在休職していますが、1日も早く復帰したいです。今は大変ですが、准看護師になるために頑張ります。

施設の先生から

卒園後、自分で食事を作っている姿に驚かされました。肉じゃがやお好み焼きなど、たくさんのメニューを作っていました。しかし、交通事故に遭ってからは会社を休職させてもらいながら治療に励み、そして看護学校へ通学するという過酷な毎日を送っていました。退院後も会社のはからいで本当にありがたい待遇を受けております。その事に甘んじず、一日も早い職場復帰をめざしていけるよう励ましていきたいです。

自衛隊に入隊して学んだこと

■奈良県 愛染寮 出身 自立支援

自衛隊に入隊して4カ月経ちました。今改めて、お金を稼ぐことの大変さなどが分かりました。今は、毎日が忙し過ぎて正直何が何だか分かりません。その中でも、自衛隊に入隊して学んだことは「時間を大切にすること」です。1分1秒が大切ということ、嫌というほど知りました。ここでは、1分遅れることによって、腕立てを100回ぐらいしなければいけないので、本当にきついです。しかし、やりがいも感じています。国民の平和と財産を守るという尊い仕事を与えられているので、仕事に誇りを持って勤務しています。

施設の先生から

入職以来3回こちらに里帰りしてくれています。ものすごくいい表情で、手土産を持って来たり、施設に寄付してくれたり、聞くまでもなく新生活の順調ぶり伺えます。本人の話では「思っていた以上に生活も訓練も厳しく、時々教官に叱られているが、充実している」とのことです。先日の帰りがけにも「また来るわ。また寄付も持って来るわ」と言って帰って行ったので、心配なさそうです。

育てられる側から、育てる側に

■岩手県 みちのくみどり学園 出身 育英奨学支援

短期大学部幼児教育科に入学してから多くのことを学び、とても充実した大学生活を送っています。講義や授業を受ける度に教育する側になることの責任の重要性を感じ、子どもを教えながら育てていくことの責任の重さに逃げたくなることもあります。しかし、子ども達とかかわることのでられる喜びややりがい、同じ夢をめざしている大学の友達などに支えられていることを強く感じることで、たくさん助けられています。まだまだ子どもかも知れませんが、克服していかなければならない課題を解決しながら成長していきたいです。また、入学にあたって支援してくれた人達、今の生活や私自身を支えてくれる大切な人達に対する感謝の気持ちをさらに強く持ちながら、これからも生活していきたいです。

施設の先生から

おかげさまで、入学式より一日も休む事無く明るく志望の短大へ通っています。かねてより予定していました眼科の手術も無事に終わり、術後の経過も良好で学生生活も満喫している様子です。将来の夢である保育士をめざし、近々、実習も始まる予定です。本人の夢が実現できるように、今後もできる限りの支援を続けていきたいと思っています。

紹介ひろば

エキスパート児童福祉支援協会は、毎年多くの子ども達を支援しています。その施設の先生方に施設内の様子や子ども達の様子をうかがいました。

児童養護施設 広島新生学園

施設データ

- 施設名称 広島新生学園
- 施設長 上栗哲男
- 所在地 広島県東広島市
- 経営母体 社会福祉法人 広島新生学園
- 種別 児童養護施設



伯和ビクトリーズとの交流会

「スポーツによって自分を律する『自律』の精神を育む」

新生学園は、1945年、原爆孤児をはじめとした戦災孤児、引き揚げ孤児の収容保護を目的として事業を開始しました。以来65年、延べ2,000名の子ども達を養護し、現在は、主に虐待などが原因で家庭での養育が難しい1歳～18歳までの児童76名が生活を共にしています。新生学園の大きな特長は、養育の基礎にスポーツを置いている点です。「創始者である父が、キャンプのグラウンドを借りて、子ども達に野球を教えたのが最初です。私も学園の皆と一緒に鍛えられました」と語るのは、上栗哲男現理事長。併設のグラウンドで男子は野球、女子はバレーボールと、小中高一貫してスポーツに深くかかわることにより、子ども達は、学園の理念である『自律の精神』を育んでいきます。「『自立』ではなく『自律』。自分を律する心ですね。体力の増進はもちろんですが、スポー

ツは協調性や責任感、忍耐力を高め、ルールに従うことを覚え、道徳や礼節を自然に育むのです」。野球部の特待生として進学を果たした児童もいるとのこと。毎日規則正しく練習をこなす、ヒットを打って成功体験を得る。そのすべてが、人間形成の基礎になるといいます。「最初は嫌々だった子ども、いつか大好きになり、将来、それがどんなに自分の助けになるかを実感してくれます」。本年度は7名が巣立ち、卒園生の進学資金としてエキスパート児童福祉支援協会の支援が活用されました。「当学園は、ギャンブルが家庭崩壊や一家離散の原因ともなることから、振興会による資金を一切導入しない方針をとっています。その意味でも、こうしたご支援は大変ありがたい、子ども達が、さまざまな自己の境遇を克服し、健やかで温かい家庭を築いてくれることを願っています」。

先生からのメッセージ

「経験を共有することで深い絆が生まれます」



児童指導員
生塩 和也先生

中高生の男子21名を、私を含め4人の職員で受け持っています。勤続19年、結婚後、近くの住まいから自転車で通うようになりましたが、「おはよう」と共に子ども達に接する生活は、住み込みの頃と変わりません。もちろん、放課後は野球の指導もしています。当学園のグラウンドでは毎夏、県内の児童養護施設対抗の野球大会を行い、地域の皆さんも大勢観戦してくれます。何よりうれしいのは、OB達の成長した姿を見られること。家族連れ、時には孫を連れて来て、大いに盛り上がります。身体を動かし、ストレスを分散させるのは本当に大切なこと。日々の生活でも、おとなしくて手のかからない子ほど、人に言えない想いを抱え込んでいる。社会に出て人間関係や金銭面で、悩むことも多いでしょうが、電話でもメールでも、ちょっとでもいいから声をかけてほしい。そんな時の話のきっかけにも、野球という共通の経験は、少なからず重要なコミュニケーションツールになるのです。

特定非営利活動法人 エクスパート児童福祉支援協会 入会・寄付のご案内

エキスパート児童福祉支援協会は、会員の皆様の会費と寄付金を財源として、運営されています。当協会の趣旨と事業内容をご理解のうえ、一人でも多くの方にご入会いただけますようお願いいたします。

●入会金及び年会費と寄付金額

※年会費は、毎年4月1日より翌年3月31日までの1か年の会費です。

		入会金	年会費	
			期中入会の初年度年会費 (10月1日から翌年3月31日まで)	
正会員	法人・団体	20,000円	20,000円	10,000円
	個人	10,000円	10,000円	5,000円
賛助会員	法人・団体	なし	5,000円	2,500円
	個人		3,000円	1,500円
寄付		1,000円から承ります		

注) ①賛助会員は議決権を持ちません。

②当協会は、認定NPO法人ではありませんので、寄付金控除の税の優遇処置適用に該当しません。ご了承のうえ、ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

●入会手続きと寄付のお申込み

入会・ご寄付に関するお問い合わせは、直接協会までご連絡ください。申込書をお送りいたしますので、ご記入後郵送、またはFAXで送っていただき、入会金・年会費・寄付金は下記の口座へお振込ください。振込手数料、郵送料金はご負担いただきますよう、お願い申し上げます。

●お振込先

三菱東京UFJ銀行 堀留支店 普通4518354
とくていひえいりかつどうほうじん
「特定非営利活動法人 エクスパート児童福祉支援協会」

ゆうちょ銀行 〇一九店 当座0362052
ぜろいちきゅう
ほうじん
「NPO法人 エクスパート児童福祉支援協会」

* 支援者からの声 *

茨城県 照山 恵子さん

私たち大人は、子どもの頃に描いていた夢も忘れ、日々時間に追われて生きている様です。時間は何物にも代えられない宝物です。これから社会に羽ばたこうとしている皆さんには、その宝物がたくさんあります。自分の中の良い部分に目を向け、いろいろな事にたくさんチャレンジしてください。傷ついたり、涙する事

もあるかもしれません。でも、それが自分磨きです。チャレンジした自分をほめて、自分を好きになってくださいね。なんと言っても自分の一番の応援団は自分ですから。私たち大人も案外自分磨きにチャレンジしています。お互い頑張りましょうね。そして大切な人と出会い、心安らぐ家庭を築いてください。これからも支援させていただきます。

事業目的

児童養護施設・母子生活支援施設などの福祉施設や里親家庭で暮らす子ども達が自立を迎えるときに、将来の可能性のある子ども達の夢を実現できるよう支援の手を差し伸べることが事業の目的です。

事業内容

- 家庭環境に恵まれない子どもへの育英奨学資金の提供
- 家庭環境に恵まれない子どもへの自立支援資金の提供

上記の事業について、賛同して下さる方々と協力し、子ども達の未来を育む事業を進めていきたいと考えております。

役員

- 理事長 加苅 康作
- 理事 酒井 正子、上田 伸夫、米林 慶子、石山 雅男
- 専務理事 三浦 直子
- 監事 伊藤 哲夫

お知らせ 12月1日より2010年度の育英奨学・自立支援制度の申請受付を開始しています。

2010年度 育英奨学・自立支援資金 応募要項

1. 支援対象

次の子ども達が対象となります。

- ① 児童養護施設入所の児童
- ② 母子生活支援施設入所の児童
- ③ 里親家族の児童

上記で、原則として18歳を迎え進学・就職する予定の児童が対象です。その他の児童福祉施設入所の児童はご相談ください。

2. 支援内容と支援金額

- ① 進学者への支度金として
一人15万円(大学・短大・専門学校など)
- ② 就職者への支度金として
一人15万円

支援資金はいずれも返済義務はありません。

3. 2010年度の支援予定者数

140名(進学者35%:就職者65%の予定)

4. 選考方法

申請書類に基づき、当協会の選考委員会によって書類審査を行います。

5. 申請書類

詳細については、当協会本部にお問い合わせください。

6. 申請受付期間と選考結果の通知

受付期間: 2010年12月1日~2011年1月25日必着
結果通知: 2011年2月末日結果通知(郵送)

7. 申込先

申請書類は当協会本部へ提出してください。

※詳しくは当協会ホームページをご覧ください。協会URL: <http://www.ex-child.or.jp>

申請受付から選考、支援完了までのプロセス

12月1日~

書類受付
開始

- ・申請書
- ・推薦状
- ・本人の作文
- ・質問用紙
- ・調査書
- ・施設パンフレット
- ・志望校案内書
- ・児童委託証明書
- ・親権者の
収入証明書

1月25日
応募締め切り

2月末日

結果通知
発送

- 送金に必要な
書類の提出受付
- ・誓約書
- ・銀行口座届出書
- ・合格・内定通知

3月20日

送金受付
締め切り

- 入金を確認した
ら受領書を送っ
てください。

4月末日

在学・在籍
証明書提出

- 学校、就職先で、
出してもらった
ものを、送って
ください。

8月1日

近況報告書
提出依頼

- こちらから、用紙
を送りますので、
ご記入のうえ、提
出してください。

~10月末日

近況報告書
締め切り

- 提出をもって支
援完了とします。



特定非営利活動法人

エキスパート児童福祉支援協会

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-10 日本橋インテリジェントフラッツ402
電話: 03-5642-6330 FAX: 03-3249-7730 E-mail: info@ex-child.or.jp

<http://www.ex-child.or.jp>